

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 5 5	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Acute effects of different alcoholic beverages on vascular endothelium, inflammatory markers and thrombosis fibrinolysis system. 異なるアルコール飲料の血管内皮、炎症性マーカー、血液凝固・線溶への急性効果	
執筆者	
Tousoulis D, Ntarladimas I, Antoniadou C, Vasiliadou C, Tentolouris C, Papageorgiou N, Latsios G, Stefanadis C.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Clin Nutr. 2008 Aug;27(4):594-600.	
キーワード	
アルコール、血管内皮、炎症、血液凝固・線溶	
要 旨	
<p>             中程度のアルコール摂取は心血管系リスクの減少に関連があるが、そのメカニズムは不明な点が多い。この論文では、血管内皮、炎症性マーカー、血液凝固・線溶へのアルコール飲料摂取の急性効果を若年成人で比較した。無作為化介入試験で若い被験者 (アテローム性動脈硬化のリスク因子を持たない者) を5つの群に分け、アルコール30gを赤ワイン(264ml)、白ワイン(633ml)、ビール(633ml)、ウィスキー(79ml)、対照として水(250ml)を摂取させた。プレスティモグラフィで前腕血流を通常時と摂取1、4時間後に測定した。この他、IL-6、TNF-<math>\alpha</math>、CRP、Fib、PAI-1、vWF、tPAを通常時と摂取4時間後に測定した。ビールと赤ワイン摂取後1時間で有意に反応性充血が増加し、4時間後にはベースラインに戻ったが、他の群ではこのような変化がないままであった。ビールと赤ワイン群のみでvWFが減少し、赤ワイン対照群のみでPAI-1/tPA比に変化が見られなかった。炎症性マーカーはすべての群で変化がなかった。以上より、ビールや赤ワインの急性摂取は血管内皮機能を改善し、vWFを減少させることが明らかになり、アルコール飲料の種類により健常者の血管内皮機能と血液凝固・線溶系に異なった影響を及ぼすことが示唆された。         </p>	